

## 66. マハタ 真羽太(かけ・かけばかま・はかま)

夏



### ◇撮影後のコメント◇

随分あちらこちらを探し回り、漸く出会えた。近江町市場の氷台の上に1尾のみ他の魚に紛れて、横たわっていた。なぜ流通量が少ないのかワシなりに想像してみた。①主たる生息域が根であり、狭い活動域。網漁は不適②釣漁が非常に少③存在自体が未知④好きに気づかない。等が理由であろう。④を強調したい。非常に美味なのだ。

漁業権の続きである。漁業者各位へ、漁業権を主張するのであれば、我々消費者の求めるものを獲ってくる義務があるはずである。浜値や流通業者でなく、これからは、もう少し我々消費者の方を向いてくれ。旧態依然とした漁業は、その終焉の時期を迎えている。1点大量漁獲から適量多品種、オンデマンド生産（漁獲または養殖）が求められている。そして、鮮魚類の流通が消費者にとって、ジャストインタイムになる様に、蓄養（流通バッファ）を積極的に取り入れよう。そして、付加価値の高いものを高値で輸出を意識しよう。いつも利用する遊漁船の船頭さんが「もう十年で漁師（人数）は半分になる」と悲観的なことをおっしゃっていたが、そうならないために対策を考慮し行動しよう。

マハタの話。昔釣れた。多分、釣行を始めて間もない頃であろう。何時何処で釣れたかどう調理したかも記憶ないが、加熱を施したのであろう。ほっこりした身であった。